

主体的に考え、行動する力を育てる授業

～学校と地域でつくる橘の学び～

大阪市立橘小学校

1. 研究主題設定の理由

本校の児童は、語彙、および言語能力に課題が見られ、基礎学力の向上の妨げになったり、児童間のトラブルにつながったり等があった。そこで令和元年度から研究主題を「主体的に考え、行動する力を育てる授業 ～聞いて、考えて、つなげる学習活動を通して～」と設定し、主体的・対話的で深い学びを実現する中で言語能力の育成を目指した。令和元年度からのコロナ禍の影響で、児童の学習環境は大きく制限され、人、地域との結びつきが希薄化した。主体的・対話的で深い学びの実現と、「つながり」の再構築が本校児童の課題となった。昨年度、本校は100周年を迎えた。周年行事を地域とのつながりを再構築するチャンスと捉え、副題を「学校と地域でつくる橘の学び」として、地域・学校の中で、言語能力に重心を置きながら主体的に考え行動する力を育めるように研究活動を行った。

2. 研究の趣旨

めざす子ども像

主体的に考え、行動する力の育みが表れる子どもの姿を具体化した。

- 学ぶ楽しさを知り、自己肯定感を持って人や地域と関わる子ども
- 友だちの話を傾聴し、互いによさやちがいを尊重できる子ども
- 失敗や変化をも糧としながら根気強く活動に取り組める子ども

3. 研究の概要

【視点1 深い学びに向かう単元構成】

・学力向上スキルのグランドデザイン

「主体的に考え行動する力」の育成を支える汎用的な能力を「学力向上スキル」と定め、基礎学力、言語能力、問題発見能力、情報活用能力、自主学習力に分類し、低・中・高学年に分けてそれぞれのスキルを具体化した。また、汎用的な言語能力として「リーディングスキル」を導入し、指導案に位置付け意識するようにした。

・6年間で系統立てて「地域・学校」について学ぶ生活科・総合的な学習の時間のデザイン

1年学校探検、2年町探検、3年橘地域の福祉、4年橘地域の防災、5年橘地域の産業、6年橘地域の未来、と学年ごとの主題を設定し、6年間で系統立てて橘地域について学び、その中で学力向上スキルを育めるようにした。

・各教科領域、単元の実施時期や関連を見渡せる年間指導計画を用いた改善

生活科・総合的な学習の時間を軸として、各教科領域の学習内容が効果的に活用されるように年間指導計画を見直した。

【視点2 本時の見方・考え方を働かせるしかけ】

・各教科領域の見方・考え方を位置付けた授業デザイン

本校指導案の冒頭に、当該単元で働かせる「見方・考え方」を明記し、授業づくりの

軸にした。

・本時における「見方・考え方」を働かせる工夫

特に本時においては、「見方・考え方」を効果的に働かせる工夫の具体を焦点化して実践し、研究の軸の一つとした。

具体例：

- ・思考の流れを可視化する板書・掲示
- ・次の学びへとつながる振り返り
- ・思考ツールや ICT の活用
- ・場の設定・言葉かけ等による対話の支援

4. 研究の成果と今後の課題

- 昨年度の周年行事中心のカリキュラムを改善し、各学年が持続可能な形にブラッシュアップすることができた。他教科領域の学びと生活科・総合的な学習の時間との関連を図り、深い学びに向かう単元構成、学習計画ができた。
- 本校で用いる指導案の形式をブラッシュアップした。各教科領域の持つ「見方・考え方」を意識して授業づくりができるように、また本時においてリーディングスキルのどの分野を重点とするのか明確化することができた。
- 学力向上スキルの育成を図るために、特に言語能力においてリーディングスキルの考え方や実践を取り入れることで、教科のめあてを達成し、研究主題にせまることができた。
- 今年度は1～6年での学習計画に重点を置いていたので、内容ベースの学習デザインが中心となった。学力向上スキルのグランドデザインに基づき、「何ができるようになるか」、能力の育成を軸に学習をデザインしていく必要がある。
- 来年度は教科書が変わり、年間指導計画そのものが変化する。これまでデザインしてきた学習内容の関連を活かし、来年度の学習計画にも反映しながらブラッシュアップを繰り返していく。
- 保護者や地域の方々も巻き込んだカリキュラム作りにより、さらなる学力向上に取り組む。